

令和6年度(2024年度) 学校評価書

学校名 北海道札幌南高等学校(定時制)

学校関係者
学校評議員
5名

1 学校教育目標

- 1 自然豊かな北方風土の中で、勤労と学業を両立できる強固な意志と逞しい体力を養う。
- 2 基礎学力を高め自己啓発に努めることにより、時代の進展に対応できる能力を養う。
- 3 豊かな情操をもって集団生活に適応し、社会の発展に貢献できる調和のとれた人格を養う。

2 スクール・ミッション

- 望ましい勤労観、職業観を身に付け、自己実現のために努力する生徒の育成
- 社会人としての基礎・基本を身に付け、時代の進展に対応し、社会の発展に貢献できる有為な人材を育成する。

3 年度の重点目標

ICTを効果的に活用した教育活動を推進し、本校教育の質の向上を図る。

4 自己評価結果

評価基準【A:達成している B:おおむね達成 C:やや不十分である D:不十分である】

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

評価基準【A 適切な評価である B ほぼ適切な評価である C やや不適切な評価である D 不適切な評価である】

(2) 改善に向けた取組の適切さ

評価基準【A 十分な効果が期待できる B ほぼ十分な効果が期待できる C あまり効果が期待できない D 全く効果は期待できない】

領域	重点事項	評価の観点	自己評価	改善・充実の方策	学校関係者評価	
			達成状況		(1)自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ
I 学習指導	①基本的な学習態度を身に付けさせ、学ぶ意欲を喚起する授業の工夫・改善を図る。	①授業規律を確保し、ICT等の活用により学びに興味・関心をもたせることができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価アンケートの結果を授業改善に活用する。 ICT活用ポータルサイトを積極的に用いて教材研究を行う。 先進的取組校への学校視察の報告会を実施するとともに本校で実践可能な好事例を積極的に取り入れる。 	A	A
	②生徒が学習したことの意味や価値を実感できる学習評価を充実させる。	②3観点に基づく観点別評価を適切に実施することができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 単元毎など、定期的にシラバスを閲覧させ、学習の意義や価値を実感させる。 定期考査を廃止し、観点別評価の充実を図る。 本年度開設した全科目のGoogleクラスルームを活用して生徒がいつでも振り返ることができるよう学びの記録の蓄積を行う。 		
	③各種検定を奨励する等、三修制の充実を図る。	③高認説明会や放課後学習会を効果的に実施し学校外学修単位認定につなげることができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 高卒認定試験に向けての放課後の講習会および夏期講習、学食なんていを継続する。 外部機関との連携による学校外学修の単位認定の促進を図る。 		
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に合った学習、個別勉強ができる。学び直しができる。 動きながら学べるよう配慮されている。 観点別評価もGoogleクラスルームも教育活動においてうまく機能させることが大切になってくる。 				
II 生徒指導	①「生徒心得」を遵守させ、規律ある生活習慣を確立させる。	①HR担任と教科担任が連携を図り、挨拶・遅刻・欠席等の基本的な生活習慣を確立することができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 登校時指導での、挨拶・遅刻への呼びかけを継続する。 登校しづりが起きる長期休業明けに面談およびカフェ企画を実施する。 	A	A
	②「命を大切にできる心」を養うとともに、「いじめは絶対に許されない」という意識と態度を育成する。	②個別面談や生徒指導に係る校内研修会から、適切な生徒理解と情報共有による問題行動の未然防止と、組織的な指導を実践できたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の生徒指導に係る校内研修会、定期的ないじめ防止委員会を継続し、いじめの未然防止・早期発見に努める。 いじめを積極的に認知するとともに日常から組織的に対応するための準備を怠らない。 		
	③自己の悩みや課題とその解決について学ばせるとともに適切なSOSの出し方を身に付けさせる。	③HR指導、学校行事、SOSの出し方教育等を通して自己理解を深め、援助希求の態度を身につけることができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部だよりやリーフレットを活用した啓発活動、および全校生徒が集まる機会での講話を継続する。 外部の相談窓口の周知を徹底する。 		
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関と連携しながら様々な行事を実施し、魅力ある学校生活が行えている。 生徒が登校できることに重点を置き、不登校にならないような対応ができる。小中学校時代に不登校だった生徒が安心して登校できている。 人の痛みがわかる生徒が多かった。生徒同士が学年を超えて話しが出来る。上級生が親切であった。 				
III 進路指導	①関係機関との連携や進路情報の提供を充実させ、自ら進路選択する能力を育む。	①企業・上級学校体験学習や進路学習により自らの進路に対する意識を高めることができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 企業訪問、進学相談会への参加を継続する。 公務員受検者の増加を目指し、官公庁と連携した取組を進める。 	A	A
	②各種活動を通して、社会に出て通用するマナーを身に付けさせる。	②進路講演会、ボランティア活動、個別面談等を通して、場に応じた言葉遣いや態度を身に付けることができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 多岐にわたる講師を招聘することで更なる充実を図る。 卒業生による進路講話を実施する。 社会福祉協議会の仲介による介護のアルバイトを斡旋し、実務をとおして社会的自立を促す。 		
	③生徒の適性・ニーズを的確に把握し、進路支援体制の深化・充実を図る。	③進路相談会や三者面談を計画的に実施し進路指導部と担任団との連携・強化を図ることができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域若者サポートステーションとの面談を継続する。 夏季休業中の3者面談で生徒と保護者のニーズを丁寧に聞き取り、支援体制の進化・充実を図る。 教員による企業訪問を実施し、就職先を新規開拓する。 		
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の希望に応じ、希望大学の指定校枠拡大要望を叶えた。 教師が深く関わってくれている。フットワークが良い。 企業訪問、進路相談会への参加、講話などは、機会の提供だけでなく、それに向けての生徒自身の意識付け、事前準備が重要である。 				
IV 健康・安全指導	①自己管理能力を高め、学業と部活動・就労との両立を支援する。	①健康相談、保健指導等を活用し健康の状態を把握させることができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭による健康相談およびプレコンセプションケア教室を継続する。 アルバイトによる疲労を防止するため、年度当初に全体指導を実施する。 	A	A
	②危機管理能力・状況判断能力を高めさせ、予期せぬ事態への対応力を向上させる。	②防犯教室、防災教室、SOSの出し方教室等を通して、具体的な方策を学ぶことができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> SOSの出し方の手段として、健康観察・教育相談用フォームを常時受け付け、消極的な生徒も訴えやすい環境にする。 札幌市民防災センターでの体験学習を導入し、災害を自分事としてとらえさせる。 		
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が安心して自分らしく学校生活を送ることができている。 コミュニケーション力の向上支援、各種保健指導、安全教育の充実度が年々向上していると感じた。 				
V 働き方	1 ワークライフバランス(仕事と生活の調和)の視点を取り入れ、勤務時間を意識した働き方を推進する		B	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容の平準化や精選に努める。 週単位の時間割変更を可能にして、必要な休暇を取りやすい職員室にする。 	A	A
	2 計画された部活動休養日等を完全実施して、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長に配慮する		A	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も生徒のニーズに応えながら、休養日の完全実施に努める。 		
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 勤務上の問題がないか今後も精査を続けること。 				